



2018年
10月1日
No. 154

2018年度 東京蜘蛛談話会例会

1. 日時 2018年12月2日(日) 10時より(開場9時30分)
2. 場所 東京環境工科専門学校 〒120-0022 東京都墨田区江東橋 3-3-7
JR 総武線 東京メトロ半蔵門線 錦糸町駅南口から徒歩7分
3. 連絡 当日は、東京環境工科専門学校の電話が使用できないので、緊急時には以下に連絡ください。
加藤輝代子 090-7012-6458 初芝伸吾 090-6156-8378
4. その他 プロジェクター, OHP 等用意いたします。
5. 講演をご希望の方は、演題と使用希望機材
(スライド, OHP, コンピュータ)
を事務局初芝までお知らせください。

〒186-0002 東京都国立市東 3-10-8 コンフィデンス高垣 105
有限会社エコシス 初芝伸吾
mail : hatsushiba-ecosys@h8.dion.jp
Tel : 042-501-2651 Fax:042-501-2652

- 錦糸町駅南口から徒歩3分です。



東京蜘蛛談話会 2018 年度採集観察会

1. 期 日： 第3回 2018年10月14日(日) 第4回 2019年2月10日(日)
2. 場 所： 国立市のママ下湧水・多摩川河川敷
3. 集 合： 集合 10:00
南武線 矢川駅北口下のロータリー
4. 世話人： 初芝伸吾
携帯電話：090-6156-8378
甲野 涼
携帯電話：090-9370-4950

観察会の予定としては、午前ママ下湧水、昼食後移動して多摩川河川敷で行い、その後、反省会にしたいと思います。

KISHIDAIA 発刊 50 周年記念号の原稿募集のお知らせ

2019年1月で KISHIDAIA が誕生してから、50年になります。そこで、114号と115号を「50周年記念号 I・II」として出版することになりました。以下のような要領で記念原稿を募集しますので、たくさんのご投稿をお待ちします。談話会の活動についての思い出、要望などなんでも構いません。字数制限もありません。

締め切り：2018年12月末日(114号)

2019年6月末日(115号)を予定しています。

掲載の割り振りは編集者の判断にお任せください。問合せ：新海 明・谷川明男

入退会は：

事務局 初芝伸吾 〒186-0002 東京都国立市東 3-10-8

コンフィデンス高垣 105 有限会社エコシス

E-mail：hatsushiba-ecosys@h8.dion.ne.jp

KISHIDAIA 原稿投稿先：

谷川明男 〒横浜市栄区小菅ヶ谷 1-4-2-1416

E-mail：dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp

キンダイアの原稿締め切りは、6月末日と12月末日です。

通信原稿投稿先：

谷川明男 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷 1-4-2-1416

E-mail：dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp

通信の原稿締め切りは、4月末、8月末、12月末です。

京都だより（８）トタテグモとあぶり餅

新 海 明

ある年の冬（2011年2月11日）．名古屋で開催された中部クモ懇談会の総会の翌日だったと思う．おりしも天気予報は雪模様になることを伝えていた．しかし，昼頃に小雪がはらりと舞っただけで，その後すぐに時雨に襲われた．嵐山の渡月橋を背景にさっと降りしきる横殴りの時雨は，東京ではさまにならないが，ここでは良い「景色」となる．昼の湯豆腐の会のあとで甘味処に立ち寄り，渡月橋の袂で関西のメンバーとも別れた．谷川さんと渡月橋を渡り法輪寺へと足を伸ばした．ここに嵯峨嵐山を一望する展望台がある．京の町並みを見渡すと，時雨がもたらした暗い雲が船岡山の上を通り過ぎる有様が望めた．そして，ここ法輪寺にはすでに条光が降り注ぎ青空がのぞいていた．

・・・と，談話会通信 143号に掲載した「京都だより（２）湯豆腐めぐり」に記したことがあった．実はこの日は，京都のキシノウエトタテグモを採集するというミッションがあった．谷川さんがDNA分析をするためだった．

前夜に名古屋から京都に入り一泊して，朝，湯豆腐の会の待ち合わせ場所に行く前に京都駅の近くにある渉成園に出かけた．2月の早朝だったので観光客はいなかった．出来るだけ人目のつかない場所でささっと採集し，嵐山へと向かったのだった．湯豆腐の会を終え，法輪寺からの眺望を堪能した後で，嵐電嵐山駅まで戻り電車で北野白梅町まで移動した．次の目当ては京都の北部でのキシノウエのサンプルを得ることだった．

場所の選定は私に任されていたので，今宮神社に行くことにした．ここに行くのにはサンプル以外にも目的があったからだ．北野白梅町からはタクシーを利用した．今宮神社は大徳寺の裏手にある．神社の入り口で車を降り，参詣者のいない通路とがけ地を探した．我々は九州でのキムラグモ採集で鍛え上げた関係プレーがある．私が先行して巣穴を見つけ，谷川さんが携帯する武器（ピンセットと藁さじ）で素早く掘り取りをするのだ．サンプルの採集は数分で終わった．

そして，今宮神社へ来たもう一つの目的に向かった．今宮神社本殿の正面を直進せず右の参道に折れると，ここに昔からの続く名物「あぶり餅」の店があるのだ．私は，かつてここを訪れた時にあぶり餅を初めて食べ，その瞬間に「これは谷川さん好みだ」と確信したのだ．「いつかチャンスがあれば谷川さんを連れてこよう」．それを叶えたのだ．

あぶり餅は，細竹の串先に指先ほど大きさの餅が刺さり10本ほども添えられているようか，そこに昔ながらの甘い白味噌だれがしたたるように付けられている．最近の流行

りの甘さ控えめなどどこ吹く風のように古来の日本庶民が憧れた甘さなのである。これぞ「谷川好み」だ。

谷川さんの反応は予想通りであった。あぶり餅を食べながら、前の店のあぶり餅の味はどうなんだろうかという話になった。実は、私が以前に来た時にいった店はその「前の店」だったのだ。だから、「まったく同じ味ですよ」と答えた。谷川さん曰く「じゃあ、こちらが本家で、向こうが元祖というわけかあ」。ご存知の方もいるだろう、われわれ世代が等しく読んだ筒井康隆「アフリカの爆弾」の「本家ターザン」「元祖ターザン」の話だ。

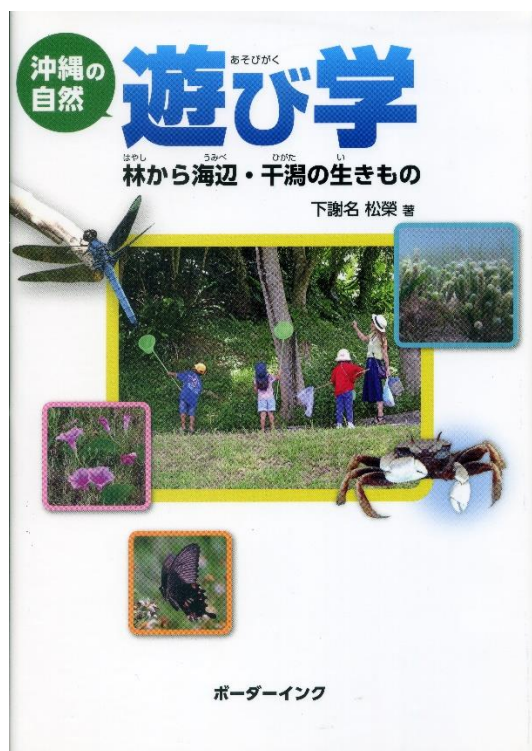
店内では大笑いとはいかず、笑いをかみ殺して店を出て驚いた。参詣路を挟み向かい合うあぶり餅の店の一方には「本家」、他方には「元祖」と染め抜かれた暖簾がかかっているのではないか（写真）。谷川さんがしきりにシャッターをきっていたのは言うまでもなかった。

古の京都の寺社で「アフリカの爆弾」に出会うとは思ってもいなかった。



(写真：谷川明男)

新刊紹介



下謝名松榮著

沖縄の自然遊び学

— 林から海辺・干潟の生き物

ISBN 978-4-89982-334-6

ポーターインク

1500 円

小野博嗣・緒方清人
日本産クモ類生態図鑑：自然史と多様性
ISBN 978-4-486-02157-5
東海大学出版部
35000 円



新海 明・安藤昭久・谷川明男

・池田博明・桑田隆生

CD 日本のクモ Ver. 2018

著者自刊（連絡先：谷川

dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp）

2140 円

クモの標本を保存し始めてかなりの年数がたち、アルコールが蒸発して標本をダメにしてしまった場合も出てきました。同好の方々の参考のために、私がこれまでに使ってきた標本瓶や筆記具の経年の変化を点検し、ここにまとめました。



図A・アルコールがほとんど減らなかったビン

概して大きなビン、PP貼パッキンのビンはほとんどアルコールが減らないようです(図A, 1~4)。1は直径37mm(28年経過)、2は直径28mm(29年経過)、3は直径20mm(28年経過)、4は直径17mm(41年経過)です。パッキンはいずれも白い色のPP貼りパッキンで、いずれもかなり年数が経っていますが、アルコールはほとんど減っていません。



図B・アルコールがけっこう減ったビン

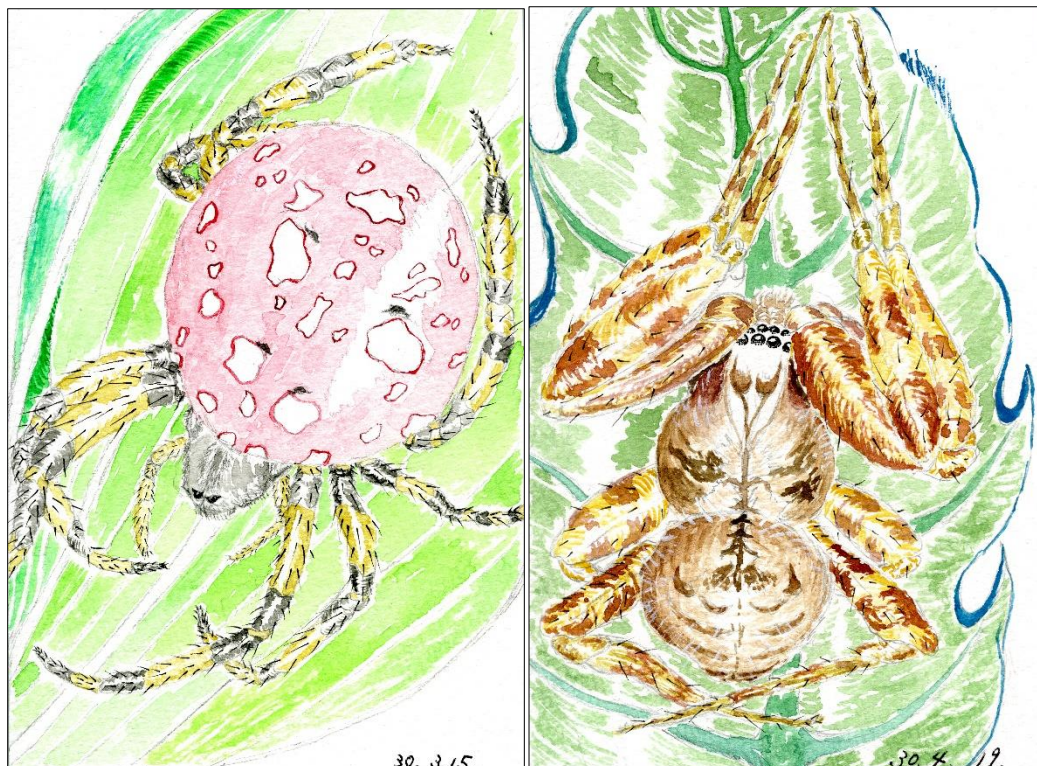
中くらいのビン(直径18mm)であっても、ニトリルゴムパッキン(図B, 5~7)やゴム栓(図B, 8)の場合は長年の間にアルコールがけっこう減ってしまうようです。図Bの5~7は、いずれも38年経過したのですが、ビンの個体差もあるようで、中には半分くらいまでになってしまったものもあります。



図C・標本が乾燥してしまったビン

プッシュ式のふたのビン(図C, 9)や小さなビン(直径14mm)のものはアルコールが蒸発して標本が乾燥してしまいました。

ラベルの筆記具については、製図用ペン(28年経過)、鉛筆(41年経過)、コピー機(29年経過)によるものがありました、いずれも消えることなく残っています。



コウさんのクモの絵の挑戦は続いています。今回は私が大好きなアカオニグモが登場。アカオニグモは、ぷっくりまあるいお腹がかわいいですよ。北海道、糠平での談話会合宿で、初めてアカオニグモを見た感動は忘れられません。野原で草に埋もれて座り込み、いくら眺めていても飽きませんでした。

もう一つは、コゲチャオニグモのオス！

クモのオスはメスより地味な存在のように勝手に思ってるのは私だけかもしれませんが、コウさんは「オスがすごくかっこいいなと思って」描いたそうです。

また「クモの実物をよく観察するといいですよ」と谷川さんからアドバイスをもらい、コウさんは「自宅でアシダカグモを捕まえました」と写真を見せてくれました。しばし観察した後は「かわいそうだから逃してあげなさい」とお母さんに言われて、逃したそうです。お母さんはクモは苦手なのだそうです。生き物に対する優しい気持ちはコウさんと同じようです。

(中島亜紀)

東京蜘蛛談話会の会費は、一般 2000 円、学生 1000 円です。

郵便振替口座 00170-8-74885 東京蜘蛛談話会へお願いします。

会費のことは：

会計担当 須黒達巳

〒150-0013 渋谷区恵比寿 2-35-1 慶應義塾幼稚舎

TEL : 080-5683-2765 E-mail: t.s.schlegelii@gmail.com



ゴミグモ

加藤康子

世間の人が、ゴミと呼んでいるものを扱うときには、節度や美意識を忘れて、やみくもに収集してはいけない。

それが楽しかったとき、そして特別に美味しかった記憶の断片だとしても、つややかさとか美しさというものは、時がたつと、次第に黒っぽく変色し、魅力的な香りも、古ぼけたけだるいものになってしまう。そして、いっしょに単なる廃棄物にされてしまうからだ。

ゴミリボンと呼ばれる私の作品も、まさかレディのイヤリングとは言わなければ、あれこれ含味して選び、積み重ねられた複雑な造りになっている。

朝、斜めから射す太陽の光を受けて、まだらで不規則な影が、どんなに奇妙で面白いかなんて、誰も気づいていないだろう。

そんな現実を、想像力でアレンジし、その中の一部になって、埋もれていると、やっかいな考えごとはどこかに消えていってしまう。

私の作品をどう思うかは、品質について、どこまで妥協を許すかどうかだけれど、「たで食う虫も好きずき」と言うから……